

What's?

ホワッツ

8対8



2006ナショナルトレセンU-12集まり©JAGC/JFA news

JFAでは、U-12で8対8を推奨しています。「11対11こそがサッカー！」という根強い考え方がある中で、U-12年代の子どもたちを「将来に向けて良いサッカープレーヤーに育てるため」に、よりふさわしいゲームであると考えます。

8対8のメリット

広いピッチで11人でやるよりも、より判断やスキルの発揮が要求される形態となっています。1対1になる局面が増し、子どもたちが自分から積極的に攻撃し、またそれを守るような状況が頻繁にできます。スキル獲得が最重要課題であるこの年代では、このゲームを推奨します。

- 一人ひとりがボールにかかわる機会が多くなります。
- 選手の人数が少ない分、全員が攻守にかかわることができます。
- 「判断」へのアプローチの場面が多く生じます。
- 「技術」の質を高めることが必要となります。

ゲームの約束事：ポジションに関して

JFA U-12指導指針では、U-12年代でゲームからより良くサッカーを学ぶことができるように、ゲームの約束事を挙げています。

①リベロは置かない

リベロは置かずにプレーさせましょう。1対1で抜かれても後ろに引いて余っている選手がカバーしていると1対1の守備のミスが目立たなくなり、守備能力を高める上ではマイナスになります。また、リベロがやっていたプレーをゴールキーパー（GK）に行うようにさせることで、将来に向けたGKの育成にもその方が有効と考えます。

②マッチアップ

お互いシステムで勝ちにくいような試合は奨励しません。あくまでもトレーニングで習得した個のスキルの発揮の場とすべきです。1-2-3-2で互いにマッチアップし、どこも余らないフォーメーションが望ましいでしょう。またポジションを固定せず、自由に動くポジションのモビリティを引き出すようにしましょう。

③さまざまなポジションを経験

GKを含め、全員にさまざまなポジションを経験させ、ポジションの役割を体験させましょう。さまざまなポジションの役割を理解しておくことは、その後ポジションが専門化してきてからも役立ちます。

④1対1の積極的なトライを

1対1のしかけと積極的なシュートを奨励しましょう。積極的なトライをさせていきましょう。

8人制のデメリット？

8人制になるとデメリットとして「出場選手が少なくなるのでは」という声がありますが、JFAとしては、むしろより多くの選手に出場機会を与えるためのゲームと考えています。

交代は「自由な交代」とし、一度交代した選手もまた出場可能としています。ですから、積極的に交代を使い、多くの子どもたちにプレーをさせていただきたいと考えています。同じベストメンバーだけで戦おうとするようなことも時に見受けられ、それが人数が少なくなると言われる理由となっていますが、チーム全体でプレーをしてほしく、チビリンピックではそのため3ピリオド制をとり、制度として全員を1ピリオド12分以上プレーさせる原則をとっています。これは登録人数等、大会の状況に応じて、「基本的考え方」にしたがって柔軟に対応していただきたいと考えています。また、8対8はハーフコートでプレーするため、フルピッチで2ゲームを同時に開催することが可能です。その分大勢がプレーできると考えています。フェスティバル等では、同一チームから複数チームの参加も積極的に検討していただければと思います。十分なコーチングができないという考え方もあるかもしれませんが、子どもたちに任せてみる機会もあってよいのではないのでしょうか。

「8人制と11人制を両方やると子どもたちが混乱する、特に大会の時期には良くない」という声も聞きますが、子どもたちはサッカーのプレーを学ぶのであって、「8人制の戦い方」や「11人制の戦い方」を学ばせるわけではありません。

子どもたちが将来に向けて成長していくにあたって、U-12年代で身につけておくべきことを年齢に即して身につけることができるようなゲーム形式で行うことが大切であると考えています。ぜひ適切に活用してください。

(JFA U-12指導指針 第6章「ゲームのガイドライン」参照)